

## 令和4年度第1回京都市はぐくみ推進審議会 摘録

日 時 令和4年4月14日（木）18：00～19：00

場 所 ルビノ京都堀川 2階 みやこの間

出席者 安保千秋委員，和泉景子委員，稲川昌実委員，井原琉之介委員  
伊部恭子委員，内海日出子委員，大東貢生委員，大橋憲宏委員  
岡美智子委員，川北典子委員，小谷裕実委員，志澤美保委員  
竹内香織委員，長岡謡子委員，永澤萌絵委員，中野浩子委員  
中村彰利委員，藤本明美委員，升光泰雄委員，松田義和委員  
松山廉委員，矢島里美委員，矢島里佳委員，山下和美委員  
(24名)

欠席者 石垣一也委員，石塚かおる委員，大森勢津委員，北川憲一委員  
田中直希委員，藤野敦子委員  
(6名)

### 次 第

#### 1 開会

資料1 京都市はぐくみ推進審議会 委員名簿

#### 2 会長及び副会長の選任

##### (1) 会長及び副会長の選任

資料2-1 京都市はぐくみ推進審議会条例

資料2-2 京都市はぐくみ推進審議会条例施行規則

資料2-3 京都市はぐくみ推進審議会運営要綱

##### (2) 部会の設置について

資料3 部会の設置について

#### 3 意見交換・質疑応答

参考資料1 令和4年度子ども若者はぐくみ局予算案事業概要

参考資料2 令和4年度教育委員会予算案事業概要

#### 4 閉会

司会	<p>令和4年度 第1回「京都市はぐくみ推進審議会」を開催する。</p> <p>本日の会議については、市民に議論の内容を広くお知りいただくため、京都市市民参加推進条例第7条第1項の規定に基づき公開することとしている。</p> <p>あらかじめ御了承いただきたい。</p>
司会	<p>それでは、開会に当たり、子ども若者はぐくみ局長の上田より挨拶を申し上げます。</p>
上田局長	<p>(開会あいさつ)</p>
司会	<p>本日お集まりいただいた委員を紹介させていただきます。</p> <p>(委員紹介)</p>
司会	<p>「京都市はぐくみ推進審議会条例」第6条第3項において、当審議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができないこととされているが、本日は、委員30名中、24名の方に御出席いただいているため、会議が成立していることを御報告申し上げます。</p>
司会	<p>本会議の会長及び副会長の選任を行う。</p> <p>お手元にお配りしている資料2-1「京都市はぐくみ推進審議会条例」第4条第2項の規定により、会長及び副会長は、委員の互選により定めることとなっている。</p> <p>会長の選任について、どなたか御意見を願います。</p>
稲川委員	<p>平成30年から会長として御尽力いただいている安保委員に引き続きお願いしたいと思うがいかがか。</p> <p>(異論なし)</p>
安保委員	<p>お受けする。</p>
司会	<p>副会長の選任について、どなたか御意見を願います。</p>
安保会長	<p>私と同じく平成30年から御尽力いただいている川北委員にお願いできたらと思うがいかがか。</p>

	(異論なし)
川北委員	お受けする。
司会	安保会長，川北副会長それぞれから一言ずつお願いしたい。
安保会長	<p>私は弁護士として，子どもの問題に取り組んでいる。委員の皆様が，子どもたちや若者の成長や未来のために，様々な仕事を通じて支援されており，その中で，私の活動は微々たる活動に過ぎないと思っている。</p> <p>この審議会において，京都市ができることや私たちができることについて，一緒に審議することで，子どもたちが私たちに何かを発信してくれるのではないかという思いを持っている。よろしく願います。</p>
川北副会長	<p>私は，保育者養成の立場から物事を見ることが多いが，この3年間でガラッと色々なことが変わってきた。何をどうしたらよいのかバタバタとしていた。</p> <p>ただ，今年度になって，コロナのせいにはばかりしてはいけないという話になった。私たちの知恵や工夫などを試されている時期ではないかと考えている。</p> <p>この審議会は様々な分野から集まっていたいており，広い視野で，京都や日本の子どものために，何ができるかを発信していければと考えている。よろしく願います。</p>
司会	ここからの議事進行については，安保会長に願います。
安保会長	<p>それでは，議事に入る。</p> <p>まず，部会の設置について，事務局から説明を願います。</p>
事務局	資料3「部会の設置について」を用いて説明
安保会長	ただ今の事務局からの説明について，質問はあるか。
	(質問なし)
安保会長	ここからは，委員の方からの御意見や御質問を頂戴する。
升光委員	プランの進捗状況管理において，マイナスに見えることも報告していただきたい。

井原委員	<p>例えば、青少年の社会参加の促進であれば、ひきこもりの青年をどうやって社会に参画させるかではなく、ひきこもりという一つの生き方を踏まえる必要があると考える。</p> <p>できていることだけでなく、なかなか進んでないことや手がつけようがないことに対して、審議会でアイデアを出し合えればと思う。</p> <p>青少年の社会参加促進について、ひきこもりであっても社会参加できる形があれば良いと思う。</p> <p>私自身がひきこもっていた時期があり、外に出ることが怖かった。</p> <p>ひきこもっているのには理由がある。環境を変化させることなく社会参加ができるような方法があれば、ひきこもりであっても自己肯定感に繋がるのではないか。</p>
矢島里佳委員	<p>予算案を見ると、マイナスをいかにゼロにするのかという項目が非常に多いと感じた。</p> <p>京都市は大変な財政難であることは承知しているが、感性をはぐくむような環境づくりや教育というものが忘れられがちになっているのではないかと思う。自分の頭で考えて生きていくという強さを持った人が少なくなってきた、社会全体が窮屈になっているのではないかと感じている。</p> <p>だからこそ、審議会において、それぞれの分野の皆様と一緒に、お金ではない支援の仕組みや本当に豊かな子どものはぐくみという点も加えてもらえるとありがたい。</p>
和泉委員	<p>Z世代と言われる今の子どもたちは、何でもできて当たり前であり、今後は、自分たちで何かを生み出さないといけないような時代になっていくと感じている。</p> <p>そのような中で、京都市に住みたいというきっかけづくりになる、子どもたちが喜ぶような地域の創生であったり、行事や集まりであったりというものが、もっとできればと思う。</p>
松田委員	<p>京都市に予算がないのは分かっているが、この会議の中で、子育て世代にとって何が本当に必要なのか優先順位を立てて、具体的な予算要望をしていく必要があるのではないか。</p>
長岡委員	<p>京都市にはスケートボードが禁止の場所が多い。体を動かす場所が少なく、他府県でスケートボード場を利用している。</p> <p>京都市で経済活動をしてもらうことを望んでいるのであれば、若者に</p>

<p>松山委員</p>	<p>とって魅力的な活動場所がもっと増えればと思う。</p> <p>若者たちが京都に住み、働き続けてもらえるような仕組みができればと思う。また、青少年の社会参加促進は大きな課題であると感じている。</p> <p>このような会議においても、若者にどんどん任せていき、彼ら自身が京都市政を作っているということを感じることができれば、若者は京都市が魅力的なまちであると感じると思う。</p>
<p>永澤委員</p>	<p>私は、京都市ユースサービス協会主催の演劇ビギナーズユニットというプログラムに参加していた。自分自身や他者と向き合う中で、自分自身というものをより理解することができた。私自身コロナ過で孤立していた中で、自分の話を聞いてくれる大人がいることを知って救われた。</p> <p>大きな枠組みの中で青少年の育成について話すということも大切だが、一人一人と向き合って相談できるような場があると若者としてありがたい。</p>
<p>志澤委員</p>	<p>コロナ禍で漠然とした不安を抱えている子どもが増えており、その親もどうすればよいのか迷っている。</p> <p>京都市は、相談窓口を設置してくれているが、そこに繋がらない方もいる。お互いの良いところを出し合えるようなネットワークづくり、横の繋がりといった体制づくりを一緒に考えていきたい。</p>
<p>藤本委員</p>	<p>重層的支援体制整備事業交付金が厚労省から出ていると思うが、どのように使っているのかを知りたい。</p> <p>つどいの広場事業は、設立されてまもなく14年になる。幼稚園・保育園に比べるとまだまだ歴史も浅いが、専門性も高まっている。充実事業受託広場の数を増やしたり、一時預かり事業の実施なども広場で加算事業として可能なメニューになっている。</p> <p>また、育休制度の法律が改正されたことによって、父親の産後うつという言葉も出てきている。父親支援、両親ともに参加しやすくするために休日における広場実施も加算事業の対象となっている。時代の流れと共に変わるニーズに合わせて事業展開できるように国の動向を見て検討していただきたい。</p>
<p>北川院長</p>	<p>重層的支援体制整備事業交付金については、子どもや障害者、高齢者などの様々な相談・支援を一元的に行うために、国に対して手を挙げて（申請をして）交付されるというものであるが、現状として、京都市は交付を受けていないものである。</p>

	<p>ただ、交付金がないから何もできない、あるから新しいものができるというのではなく、手を挙げる場合には、色々な意見をもらいながら進めていきたい。</p>
塩山部長	<p>つどいの広場や児童館も含め、身近な地域に相談場所やつどいの場を作り、充実を図っている。</p> <p>非常に重要性はあると思うので、求められているものや国の事業メニューなどを注視しながら、活用できるところを活用することを考えていきたい。</p>
大東委員	<p>京都市はぐくみプランは、2020年から始まっているが、この2年間書面開催であり、どこまで進んでいるのか分からない。</p> <p>今年は2022年でちょうど中間年となる。何ができて何ができてないのかの情報を提供いただき、議論を進めていきたい。</p>
矢島里美委員	<p>子ども園という、子どもを預かる現場の立場から申し上げる。</p> <p>コロナ禍において、子どもたちがどのような成長を遂げていくのか不安な気持ちがあった。特に、今年の子どもたちは、コロナ禍でストレスを抱えながらの卒園であり、我々も大変な不安の中、送り出した。</p> <p>今までは、制度をどうするか、待機児童をどうするかといった、目の前の目標に向かって、具体的にどのような対応策を作っていくかということが優先されてきたと思う。しかし、これからは、将来を担っていく子どもたちのはぐくみをどうすればよいのかについて、皆様と話ができればと思っている。</p> <p>コロナは大変だったが、コロナ禍だからこそ、足元を見つめ直したり振り返りができたりと、新たなスタートを切って、ピンチをチャンスに変えていくことができたと思っている。</p>
安保会長	<p>それでは、本日の審議はこれで終了し、事務局へ進行をお返しする。</p>
司会	<p>以上をもって、第1回「京都市はぐくみ推進審議会」を終了する。</p> <p style="text-align: right;">(以上)</p>